

## 2社が融合し、グローバルに成長

良質な医薬品の普及を志向する  
薬業家達により19世紀に創業した老舗企業

### 大日本製薬株式会社

1897年、大阪・道修町の有力薬業家21名により大阪製薬株式会社を設立。翌1898年には大阪・海老江に製薬工場を設置。東京にあった半官半民の大日本製薬会社を吸収合併し、社名を大日本製薬株式会社に改称。医薬品事業のほか、動物用医薬品、食品添加物、工業薬品の製造販売など、幅広く事業を展開。

#### 強み(研究重点領域)

- 感染症
- 精神神経系疾患
- 血管系疾患
- 免疫炎症性疾患

#### 主な製品

- その他(消化器):消化管運動機能改善剤「ガスモチン」
- 血管系:末梢循環改善剤「プロレナール」
- 免疫炎症性:持続性抗アレルギー剤「エバステル」

住友の事業精神と技術を受け継いだ  
化学メーカー発の製薬企業

### 住友製薬株式会社

1984年、住友化学工業株式会社の医薬事業の研究、開発、製造部門と、稲畑産業株式会社(住友化学の医薬品の販売総代理店)の医薬販売部門を継承して設立。循環器・糖尿病領域、精神神経系領域、免疫(炎症・アレルギー)領域、がん・感染症領域を中心とした医薬品事業で成長。

#### 強み(研究重点領域)

- 循環器・糖尿病領域
- 炎症・免疫アレルギー領域
- 精神神経系領域
- がん・感染症領域

#### 主な製品

- 循環器:高血圧症・狭心症治療薬「アムロジン」
- 感染症:カルバペネム系抗生物質製剤「メロベン」
- がん:天然型インターフェロン-α製剤「スミフェロン」

## 存在感のある先進的な製薬企業を目指して 大日本住友製薬株式会社 誕生

#### 統合の背景

- 厳しさを増す国内事業環境  
(医療費抑制、国内業界再編)
- 新薬開発を取り巻くグローバル競争の激化

#### 統合の目的

- 国内事業基盤強化
- 研究開発力の強化とパイプラインの充実
- 海外展開
- 挑戦的企業文化の醸成

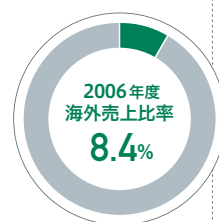
2005年10月1日

大日本製薬と住友製薬が  
合併し、大日本住友製薬が  
誕生



2009年

米国セブラコール社(現サ  
ノビオン社)を買収



1897 大日本製薬株式会社

1984 住友製薬株式会社

2005 2006

統合シナジー  
の最大化

2007 2008 2009

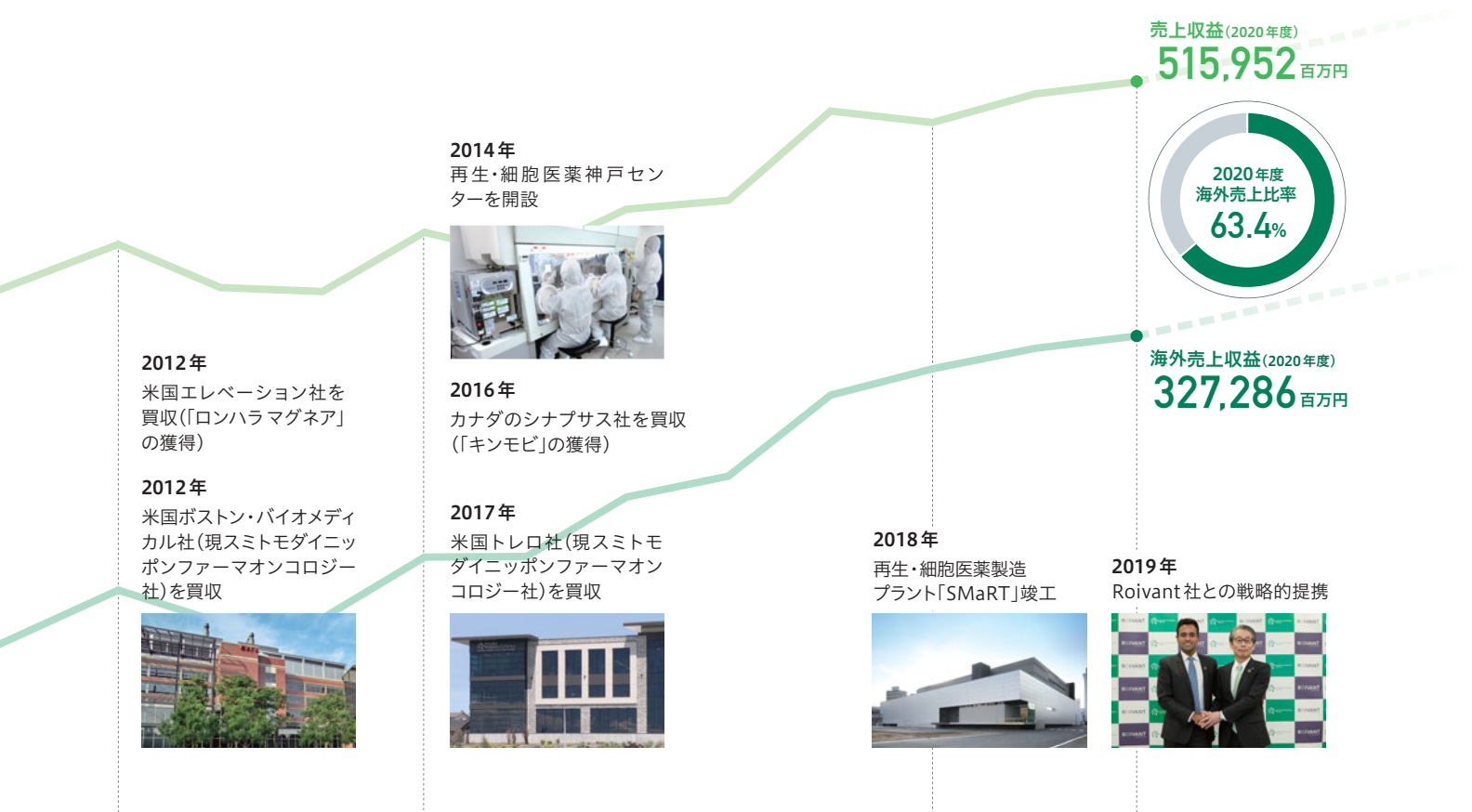
第一期中期経営計画  
基盤整備

海外での自社販売体制確立  
精神神経領域のパイプライン拡充

→ 中期経営計画の詳細はP.27を  
ご覧ください。

### 大日本住友製薬誕生後の軌跡

当社は合併以来、「事業のグローバル化」を積極的に推進してきました。北米においては、非定型抗精神病薬「ラズーダ」の自社開発、自社販売体制の構築に取り組みました。その結果、「ラズーダ」は約2,000億円を売り上げるブロックバスターへと成長し、2020年度の海外売上収益比率は60%を超えるグローバル企業となりました。事業の核である研究開発では精神神経領域に加えて、2011年にがん領域に本格的に参入、さらに2013年からは新規事業分野として、他社に先駆けて再生・細胞医薬分野に取り組んできました。近年では、デジタル技術などを活用したヘルスケアソリューションの創出を目指すフロンティア事業に取り組むなど、いつの時代も革新的かつ有用な医薬品を日本のみならず世界中の人々に提供することを目指して挑戦を続けています。



2010 2011 2012

第二期中期経営計画  
**成長への  
テイクオフ**  
「ラズーダ」の伸長  
がん領域への本格参入

2013 2014 2015 2016 2017

第三期中期経営計画  
**成長軌道へ**  
国内の事業基盤強化に向けた体制の再編・高効率化  
M&Aによるがん領域のパイプライン拡充  
再生・細胞 医薬 分野への本格参入

2018 2019 2020 2021 2022 (年度)

中期経営計画 2022  
**事業基盤の再構築**  
ポスト・ラズーダと「変革の時」への対応  
「成長エンジンの確立」と「柔軟で効率的な  
組織基盤づくり」による事業基盤の再構築